

但馬空港の概要と環境変化等

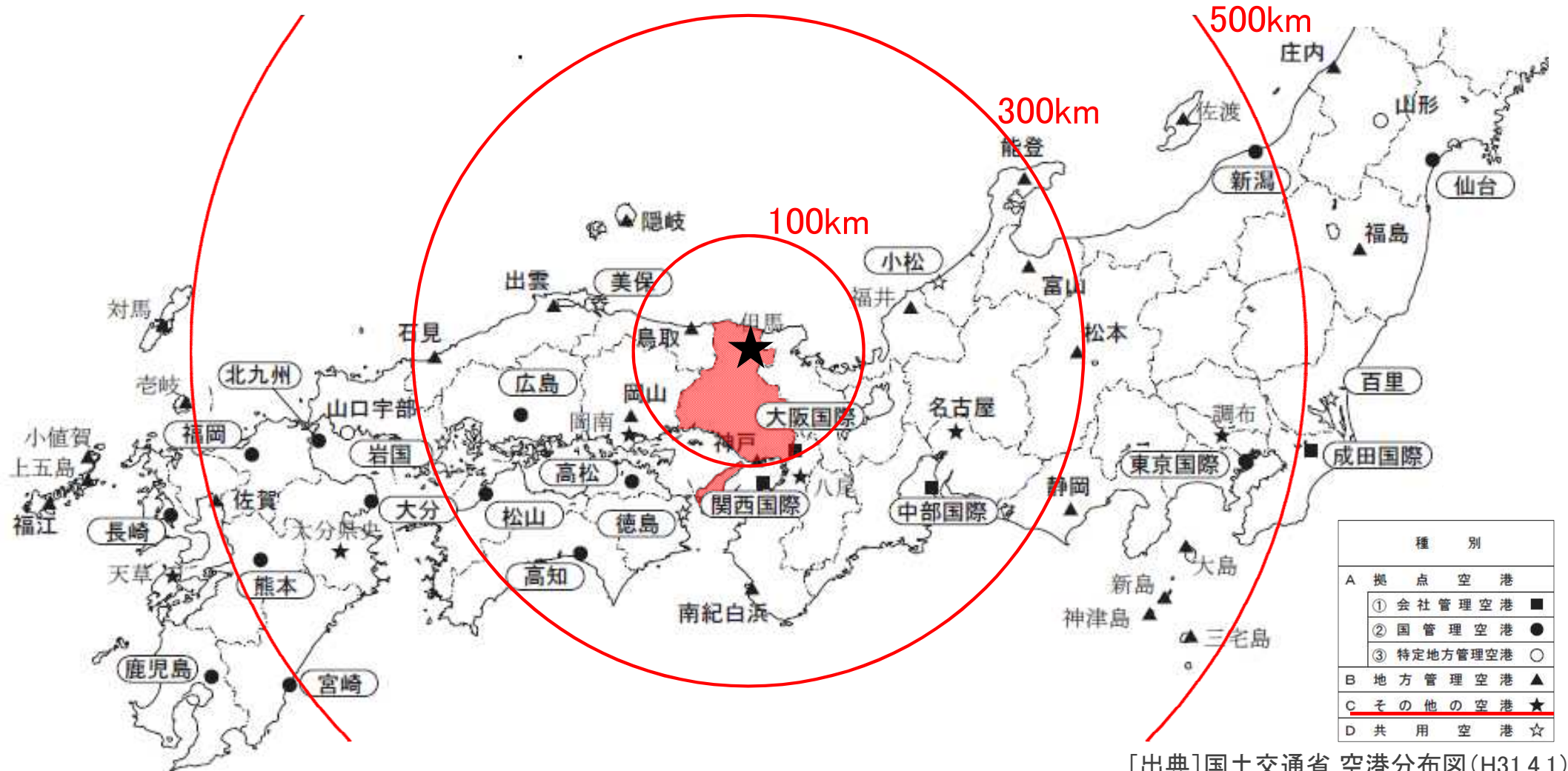
1. 但馬空港の概要
2. 空港・航空分野の環境変化
3. 但馬・京丹後地域の環境変化
4. 但馬空港の課題
(羽田発着枠政策コンテスト応募に向けた協議調整から見た課題)
5. 近隣空港との比較

1. 但馬空港の概要

但馬空港の位置・目的

【位置】 兵庫県の日本海側 兵庫県豊岡市

【目的】 高速交通の空白地解消のため開港(平成6年)



[出典]国土交通省 空港分布図(H31.4.1)

兵庫県内の3つの空港



【伊丹空港】

- ・国内線基幹空港

【神戸空港】

- ・神戸とその周辺地域の空港

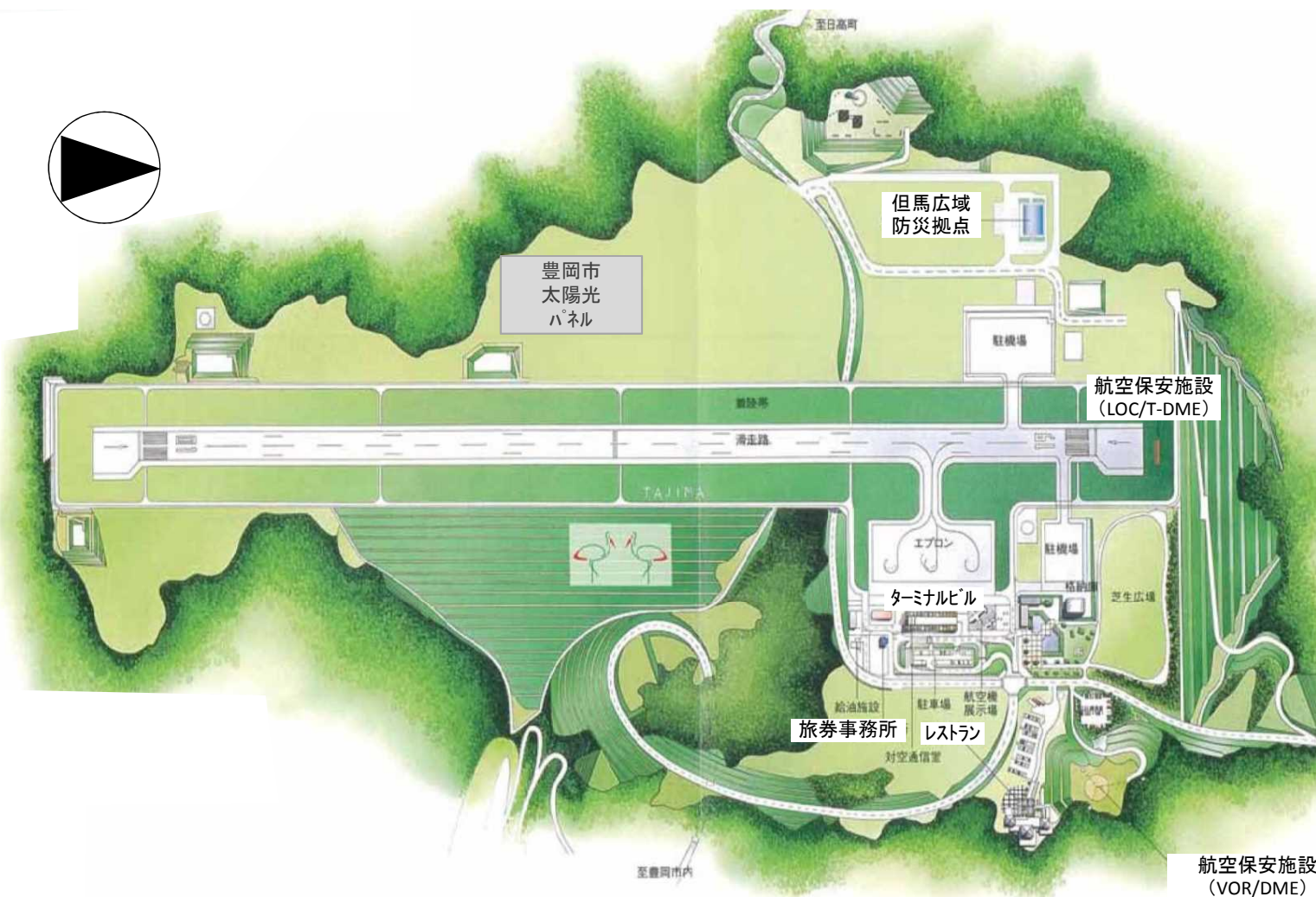
【但馬空港】

- ・全国初の通勤ター空港
- ・日本海交流の拠点
- ・大阪、神戸、東京、名古屋、福岡などの都市への就航を目標
- ・但馬空港と伊丹空港
L=175Km



但馬空港の諸元

滑走路長1200m



- (1) 空港の種別：その他空港
(空港のうち、拠点空港、地方管理空港及び公共用ヘリポートを除く空港)
- (2) 設置者：兵庫県
- (3) 開港：平成6年5月18日
- (4) 運営権者：但馬空港ターミナル(株)(TAC)
- (5) 運用時間：8時30分～18時30分
- (6) 標高：176.1m
- (7) 滑走路：長さ1,200m、幅30m
- (8) エプロン：奥行き65m、幅150m
(小型機3バース)
- (9) 無線施設：VOR/DME
LOC/T-DME 等
- (10) 事業費：約179億円

運航路線

■ 定期便

就航路線 : 但馬空港～伊丹空港

便数 : 1日往復2便

航空会社 : 日本エアコミュニタ株(JAC)

運航機材 : ATR42-600(座席数48席)
※H29まではサーブ340B(36席)

(JACの運航路線)



本土で最も短い路線
(区間距離175km/約40分)

マイル修行僧が多い!

■ 機材更新(ATR42-600の導入)

⇒機材の経年化に伴い、運航の更なる安定を目指してH30に更新

但馬オリジナルのコウノトリのラッピング塗装で、各就航地で但馬やコウノトリをPR!



(H30.5.7 ATR機初就航セレモニー)



(H30.7.20 TAC保有機調印式)



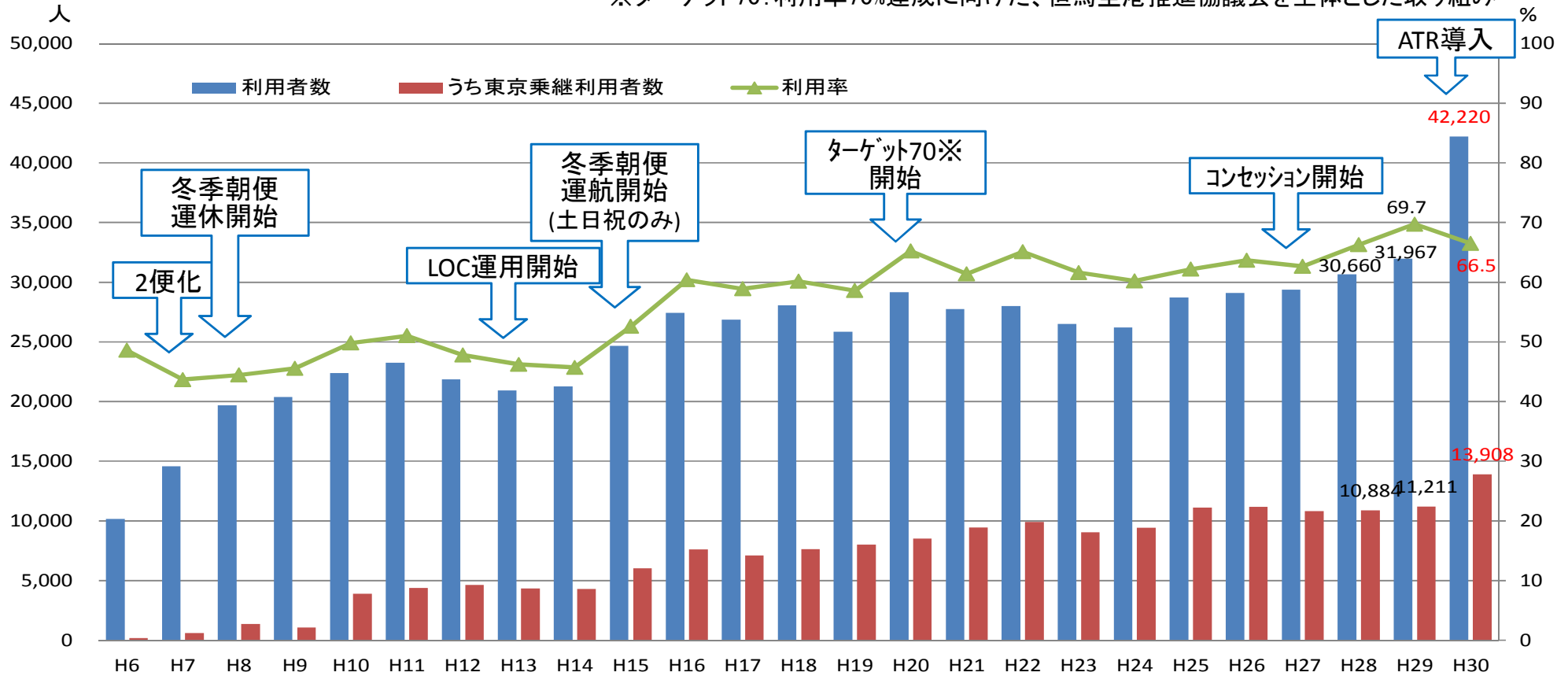
(H30.10.6「コウノトリ号」就航セレモニー)

但馬空港の利用状況

- 開港からH14までは、利用者数:約2万人(利用率:約45%)
H16から冬季朝便を運航開始し、利用者数:約3万人(利用率:約60%)
H30年度は、ATR機導入により、約1.3倍(4.2万人)の利用者数を記録
- H25年度以降、伊丹での東京乗継ぎ利用者は、1万人以上

[利用者数の推移]

※ターゲット70:利用率70%達成に向けた、但馬空港推進協議会を主体とした取り組み

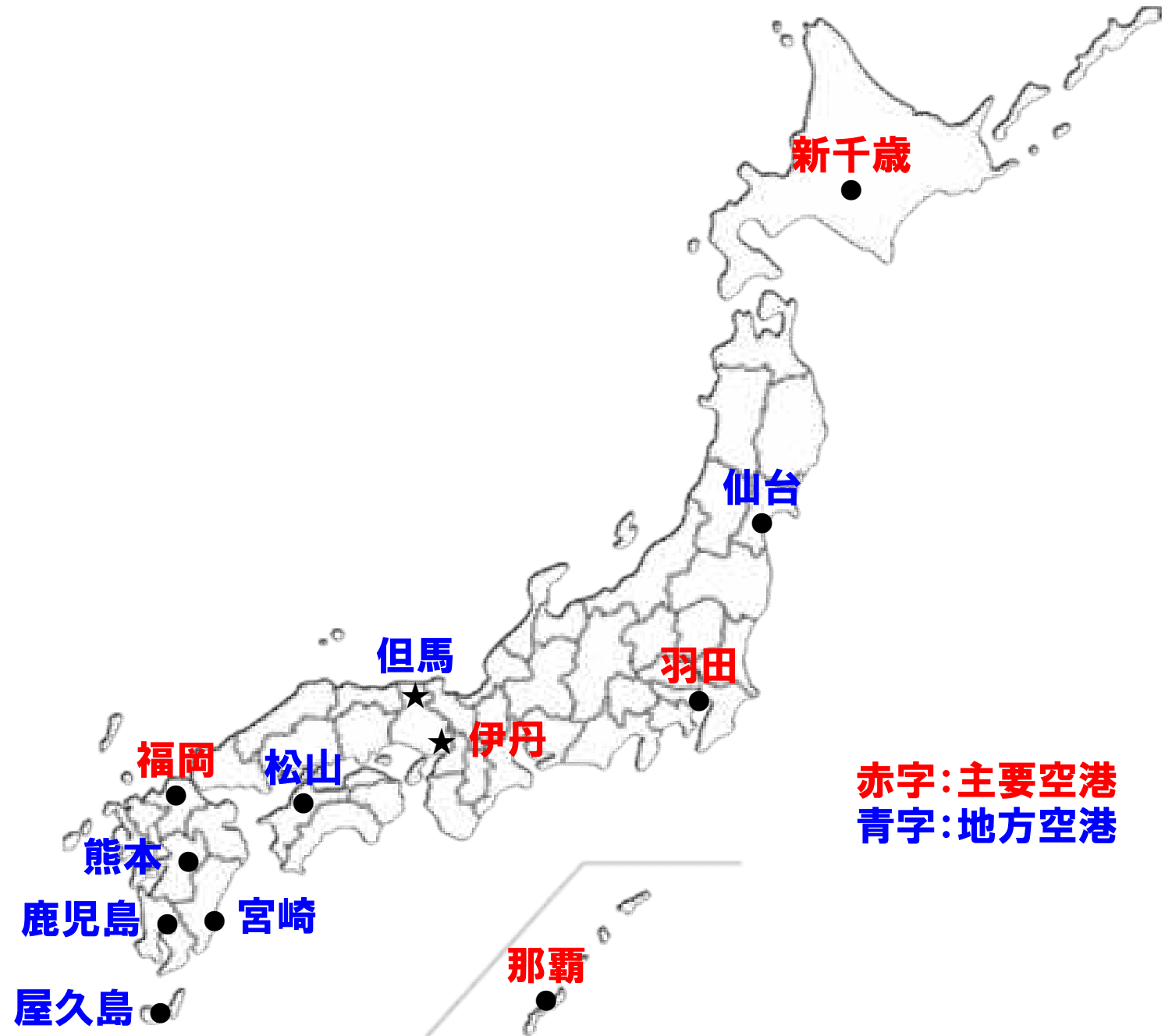


	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
利用者数(人)	10,172	14,577	19,688	20,373	22,387	23,253	21,857	20,920	21,271	24,665	27,418	26,851	28,069	25,861	29,161	27,748	27,995	26,508	26,208	28,726	29,082	29,362	30,660	31,967	42,220
うち東京乗継利用者数(人)	186	614	1,356	1,056	3,904	4,382	4,650	4,332	4,296	6,041	7,612	7,107	7,642	8,005	8,520	9,449	9,923	9,047	9,416	11,113	11,193	10,811	10,884	11,211	13,908
利用率(%)	48.6	43.7	44.4	45.6	49.8	51.0	47.8	46.2	45.7	52.6	60.4	58.9	60.1	58.6	65.2	61.4	65.1	61.6	60.2	62.2	63.7	62.6	66.3	69.7	66.5

但馬便の伊丹空港での乗継利用者数

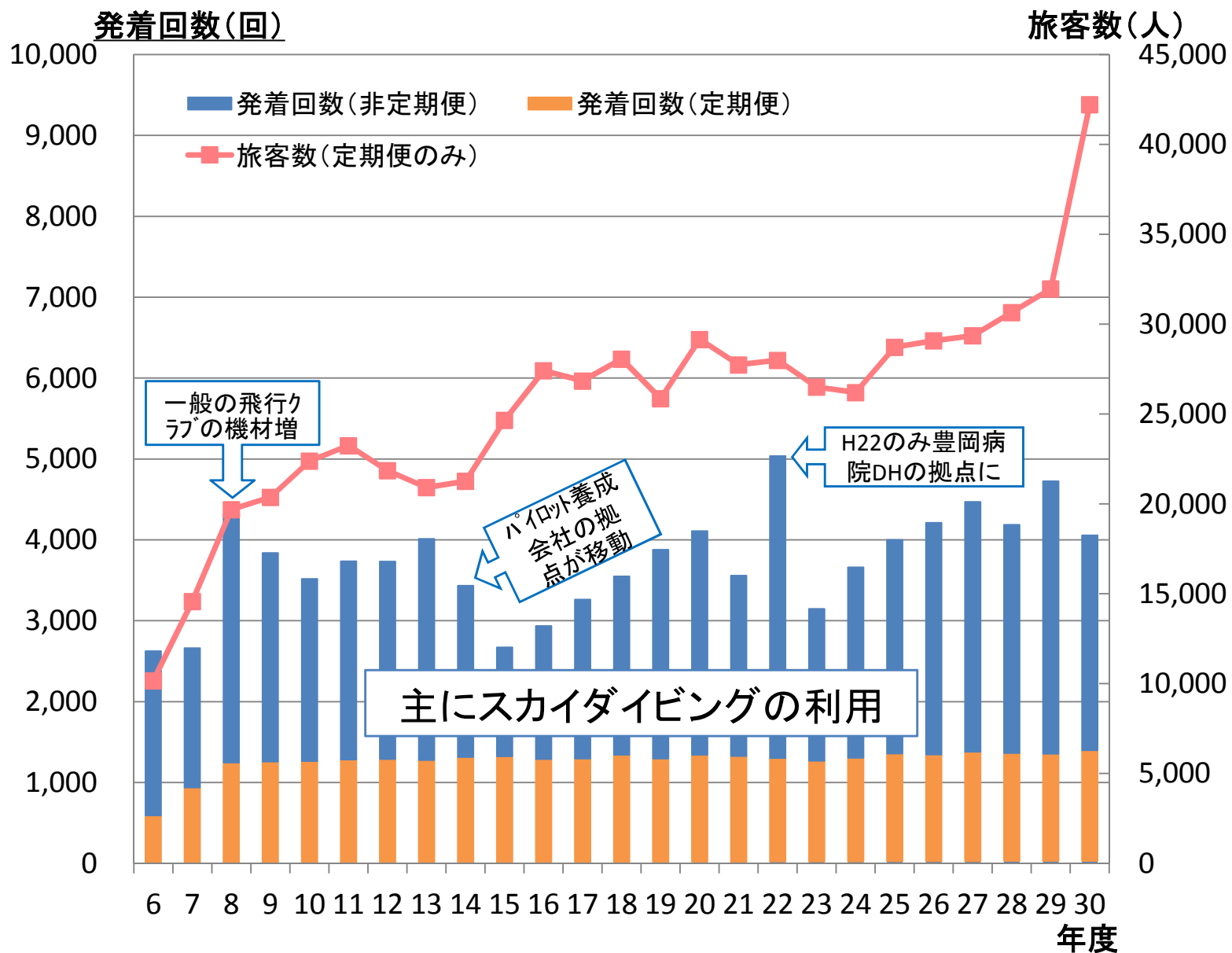
■乗継利用者数(H30年度)

順位	空港名	利用者数 (人)
1	羽田	13,908
2	福岡	636
3	仙台	279
4	那覇	252
5	松山	231
6	宮崎	231
7	新千歳	206
8	鹿児島	172
9	屋久島	111
10	熊本	107



但馬空港における発着回数

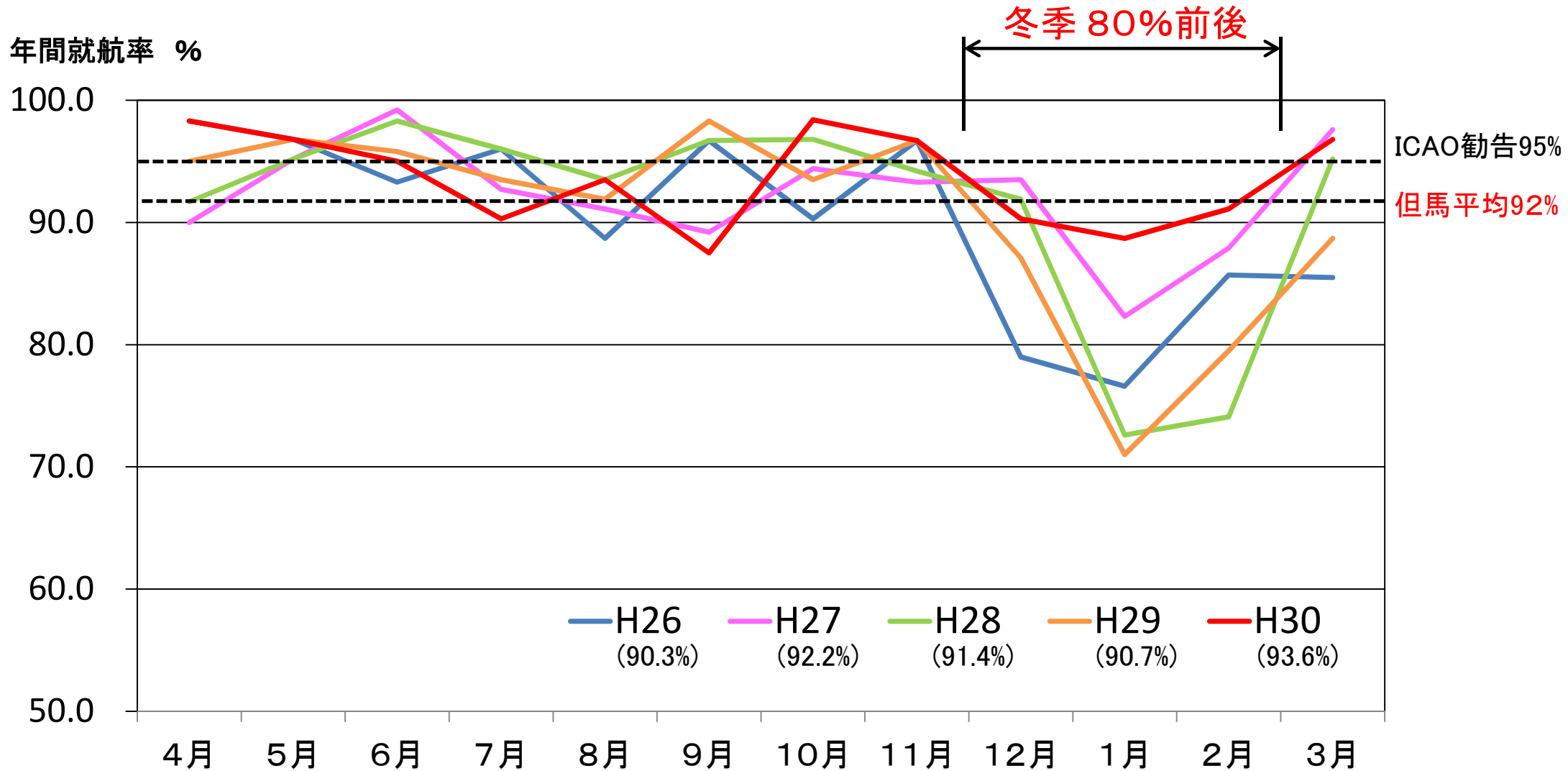
■スカイダイビングなど非定期便の利用が多い



冬季の就航率は80%を下る場合も

■ 過去5年間(H26～30年度)の平均就航率は92%

■ 月別で見ると、冬季の12～2月は降雪・霧等の影響で低くなる傾向

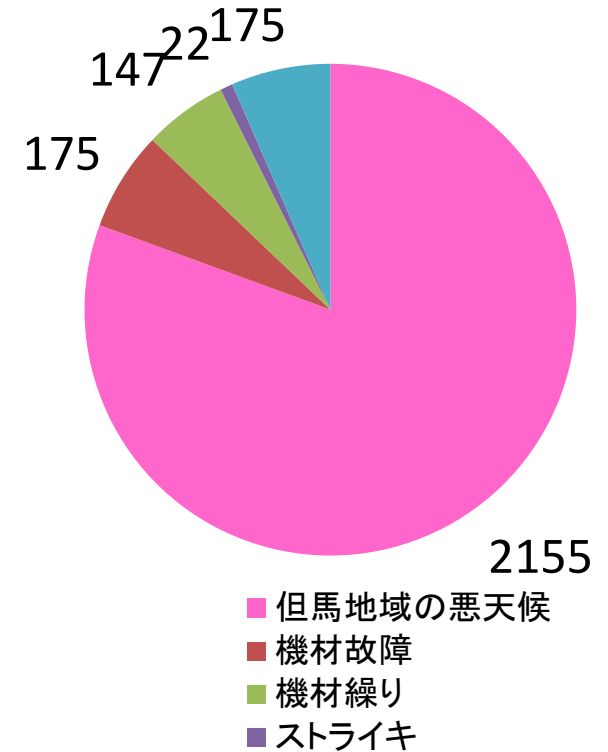


主な欠航理由

■ 「但馬地域の悪天候」によるものが特に多い

年度	欠航理由分類						合計
	但馬地域の悪天候 (うち雪が原因)	機体故障	機材繰り (手配不可)	ストライキ	その他 (台風など)		
H6	94	2	0	0	4	100	
H7	174	8	0	0	6	188	
H8	96	10	2	4	6	118	
H9	74	9	4	2	18	107	
H10	103	5	5	0	4	117	
H11	86	2	0	0	4	92	
H12	74	0	2	4	0	80	
H13	76	6	2	4	4	92	
H14	50	0	6	0	0	56	
H15	68	12	0	0	4	84	
H16	88	(32)	4	2	0	24	118
H17	96	(70)	1	7	0	5	109
H18	44	(4)	7	3	0	8	62
H19	89	(38)	4	14	0	6	113
H20	42	(18)	0	12	8	0	62
H21	72	(30)	1	5	0	2	80
H22	94	(54)	0	12	0	0	106
H23	124	(78)	7	4	0	10	145
H24	80	(40)	8	15	0	4	107
H25	94		28	0	0	6	128
H26	108	(42)	18	0	0	16	142
H27	76	(16)	19	11	0	8	114
H28	98	(26)	17	6	0	4	125
H29	105	(44)	7	16	0	8	136
H30	50	(10)	0	19	0	24	93
累計	2155	(502)	175	147	22	175	2674

欠航理由の割合

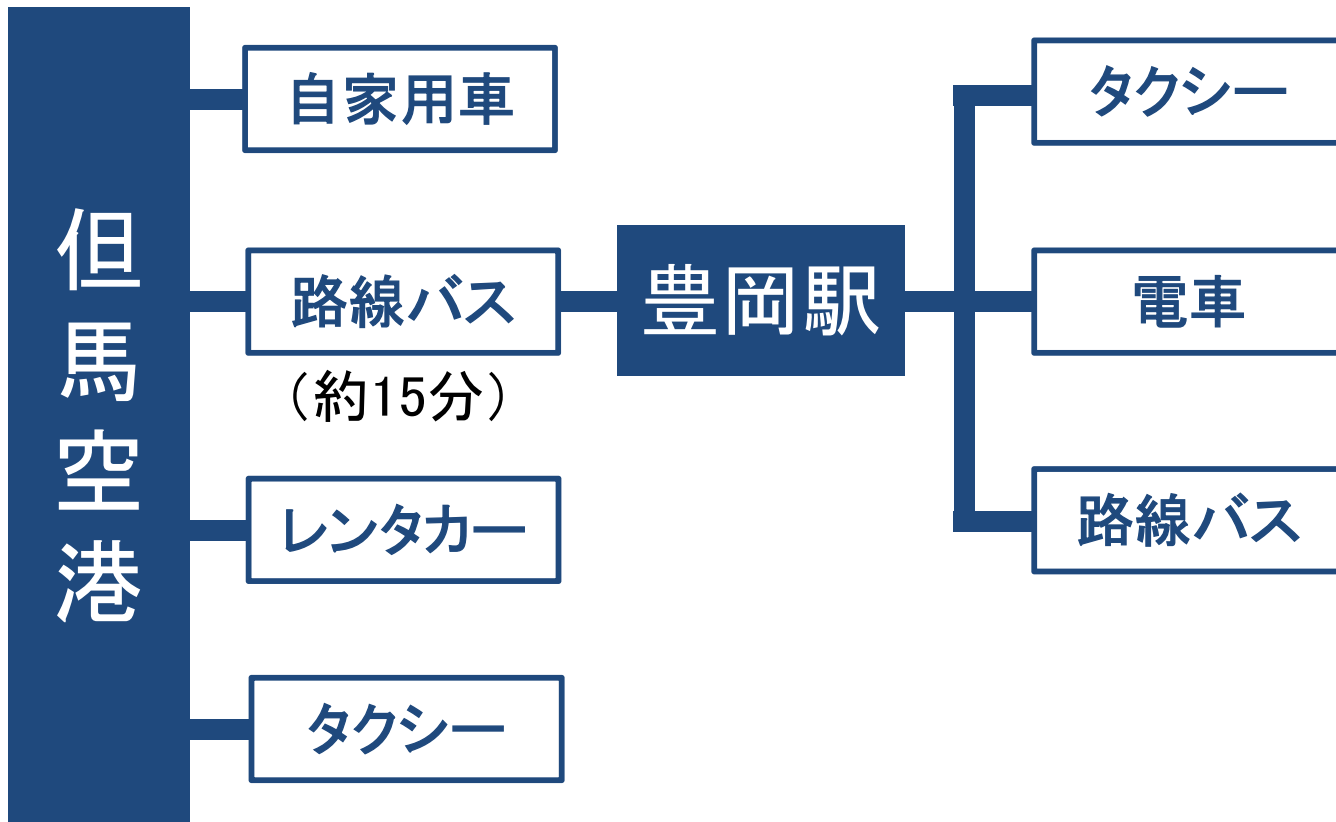


「但馬地域の悪天候」欠航理由詳細(H30)

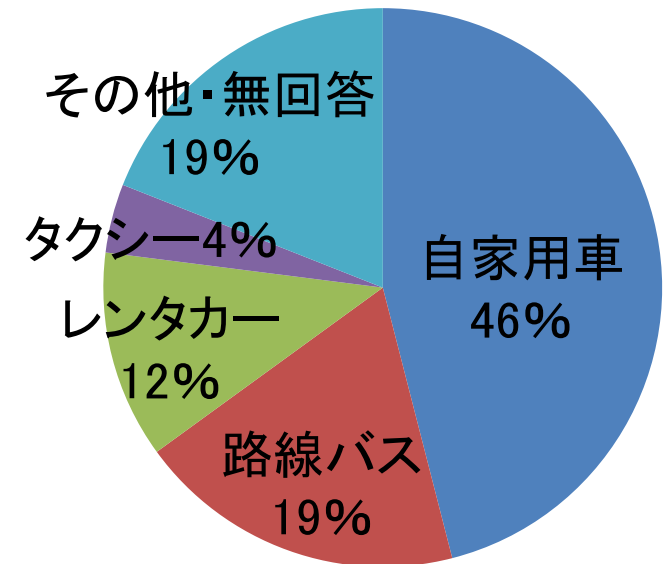
分類	理由	回数
分類	霧で視程不良	24
	航路上の天候不良	12
	雪	10
	強風	4
合計		50

2次交通の状況

■ 但馬～伊丹路線利用者の移動手段は、約半数が車利用



但馬空港まで(から)の交通手段
※R1年7月・12月定期便アンケート



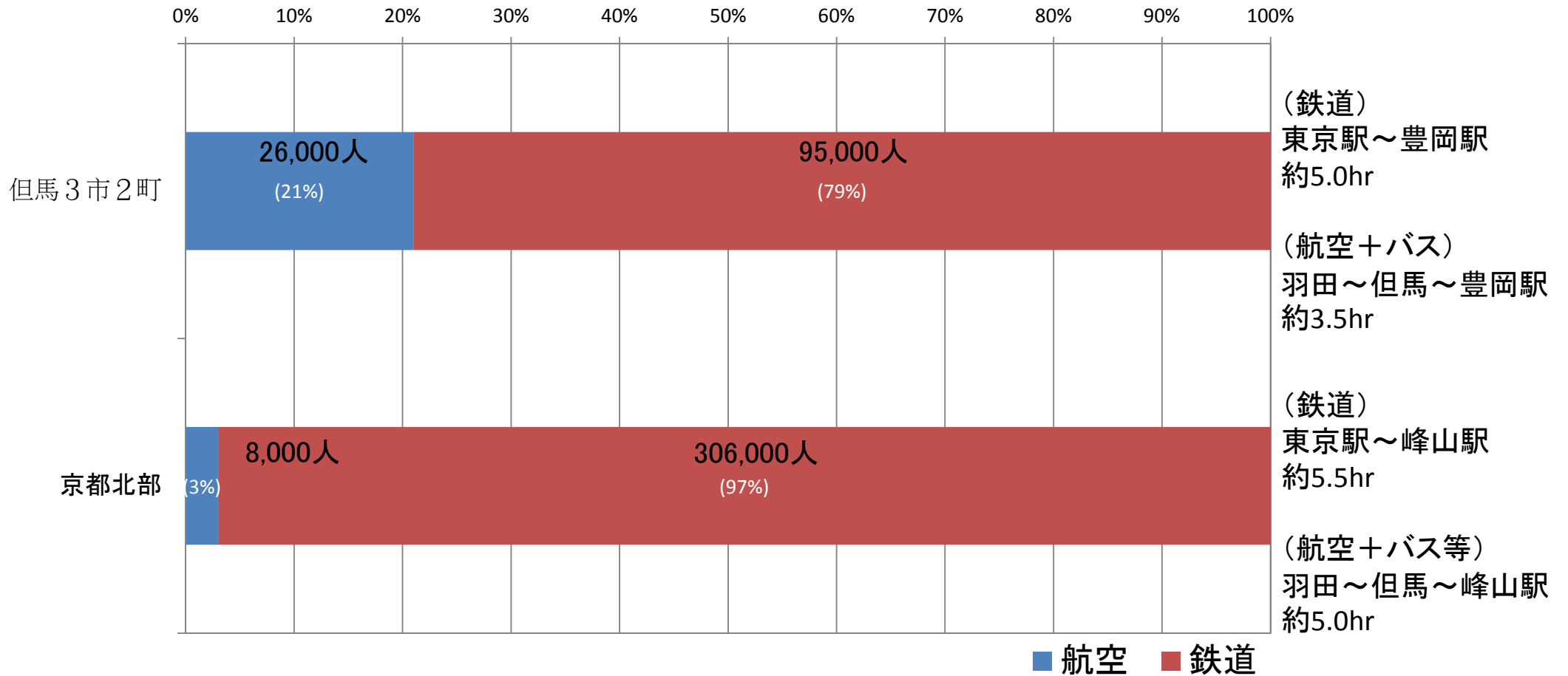
回答者数582人

但馬来訪者の目的地(R1年12月定期便アンケート)

■ 但馬・京丹後への旅行先は、豊岡市に集中。

市町	地域名	集計	市町	地域名	集計
豊岡市	豊岡地域	84	香美町	香住区	5
	城崎地域	41		村岡区	1
	竹野地域	5		小代区	0
	日高地域	9		計	6
	出石地域	14	新温泉町	温泉地域	3
	但東地域	3		浜坂地域	0
	計	156		計	3
養父市	養父地域	9	丹後地域	京丹後市	4
	八鹿地域	2		宮津市	9
	大屋地域	0		伊根町	6
	関宮地域	0		与謝野町	1
	計	11		計	20
朝来市	朝来地域	1	その他	但馬空港	55
	和田山地域	2		-	3
	生野地域	1		計	58
	山東地域	0	総計		258
	計	4			

首都圏と但馬・京丹後地域の航空機分担率



出典：平成27年全国幹線旅客純流動調査(国土交通省)
 流動のゾーン単位は、全国207生活圈

※鉄道は乗換え時間を含む。
 航空は保安検査時間、バス乗換え時間を含む。

※京都府北部：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町

RESA (滑走路端安全区域) の拡張が求められる

■RESA対応 期限: 令和9年3月末

対応案

- ① 内側に100m滑走路短縮 ⇒ 座席制限が生じる
- ② 現範囲内にアレステイングシステムを導入 ⇒ 導入費、更新費が高額のため非現実的
- ③ 外側に100m拡張(用地買収含み) ⇒ **約40億円**

原則
90m以上

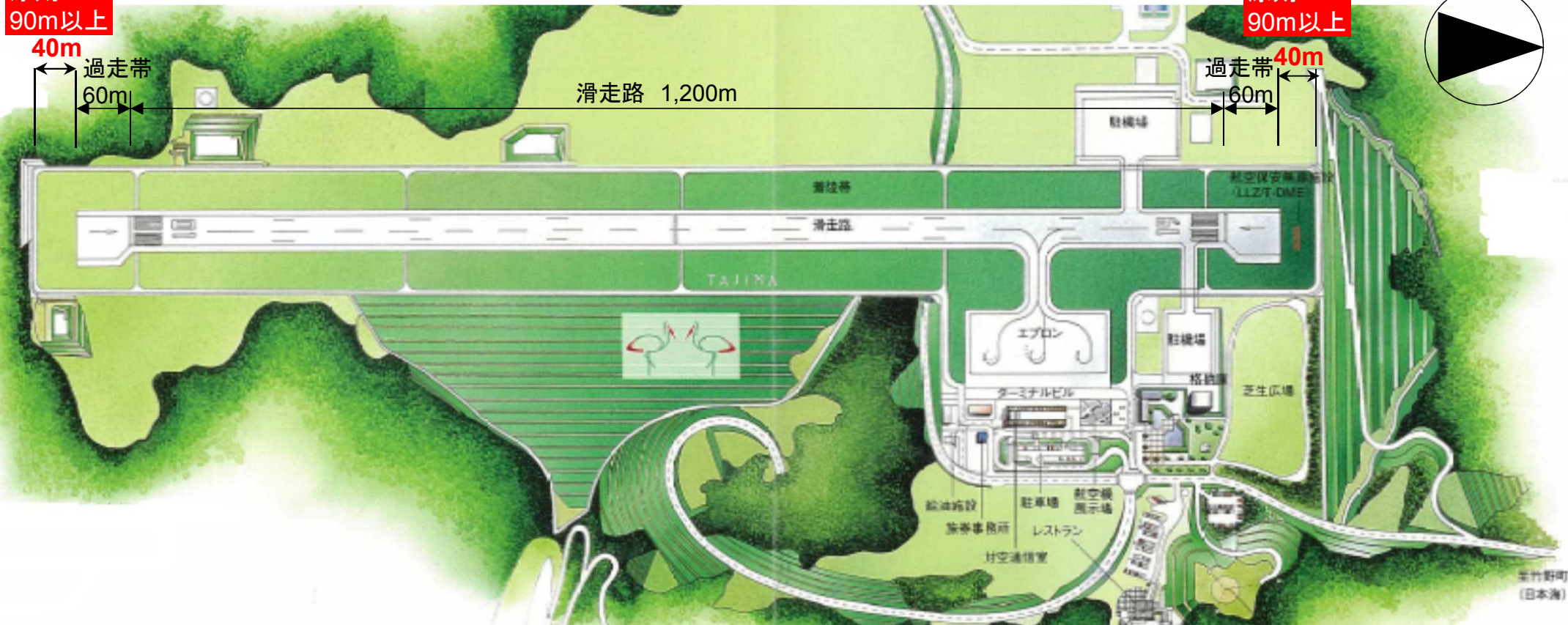
40m

過走帯
60m

滑走路 1,200m

原則
90m以上

過走帯
40m
60m



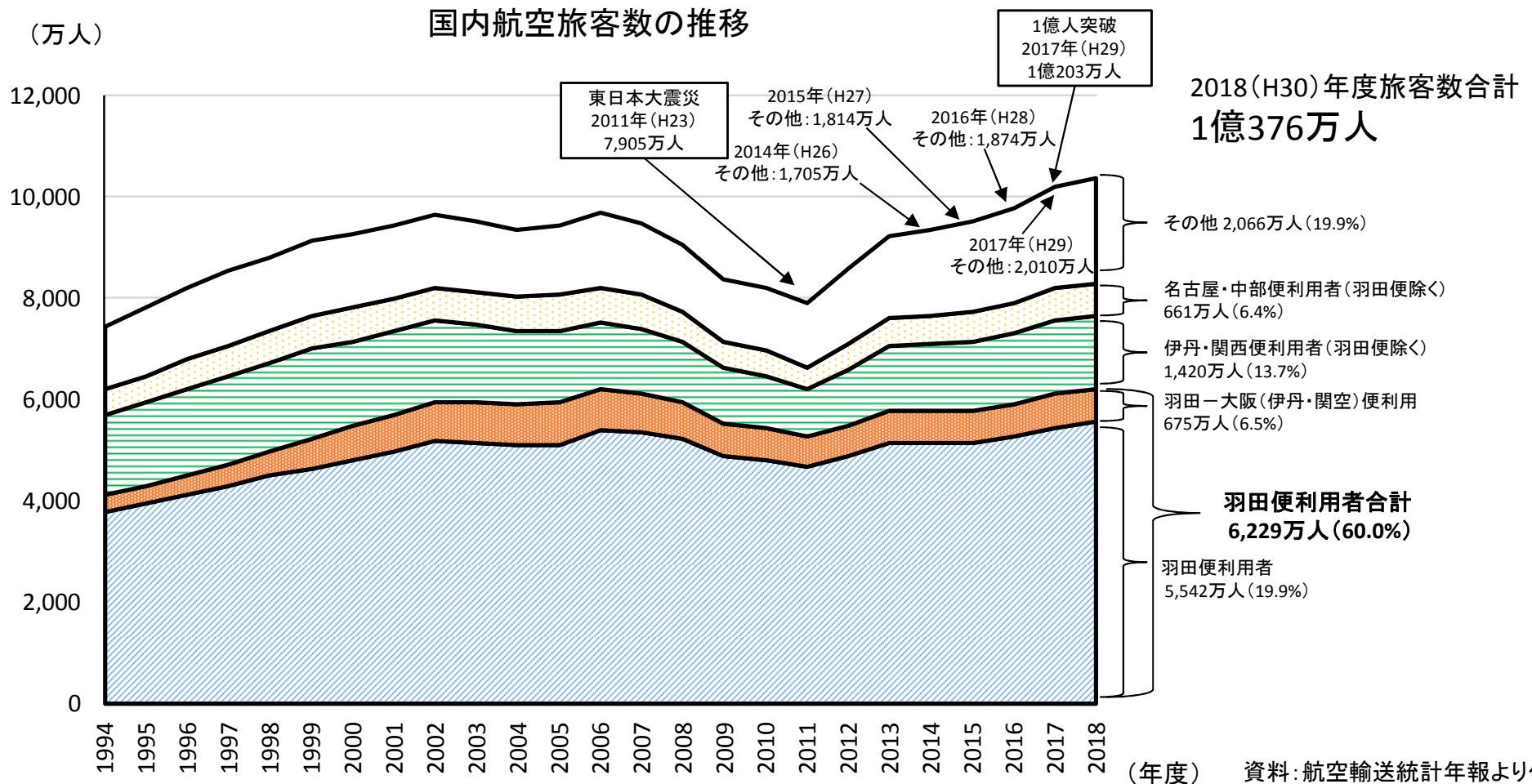
2. 空港・航空分野の環境変化

増加する航空需要(国内線)

燃油価格高騰の影響により平成19年度より減少に転じ、2008年のリーマン・ショック以降の世界的な景気後退、2011年の東日本大震災の影響を受け減少傾向であったが、2012年度からLCC参入による需要増等により増加。また、国内全体の利用者の約6割は羽田空港の利用者。

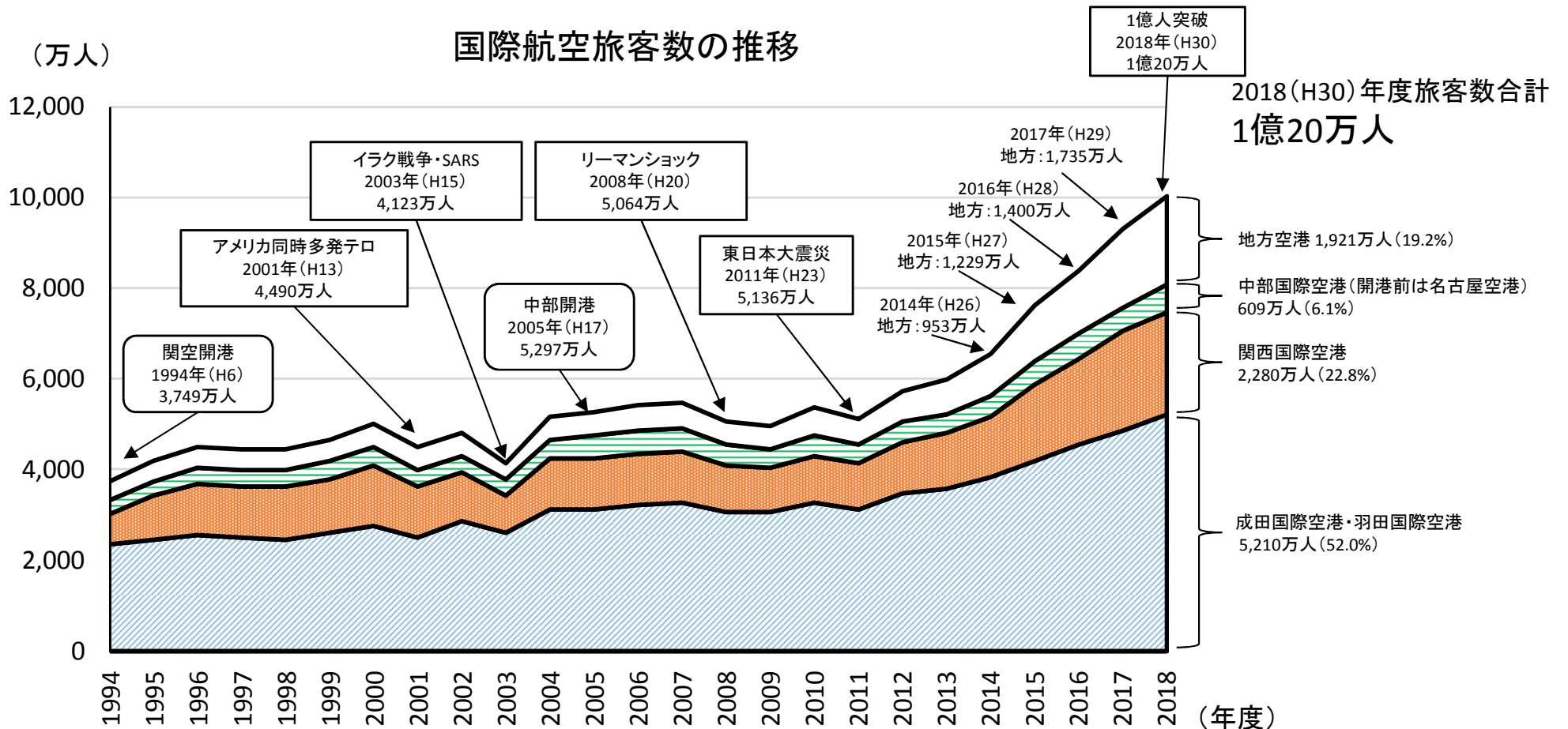
2014(H26)9,379万人→2018(H30)10,376万人(1.1倍)

うち「その他」*1,705万人→2,066万人(1.2倍) *羽田、関空、伊丹、名古屋、中部を除く利用者



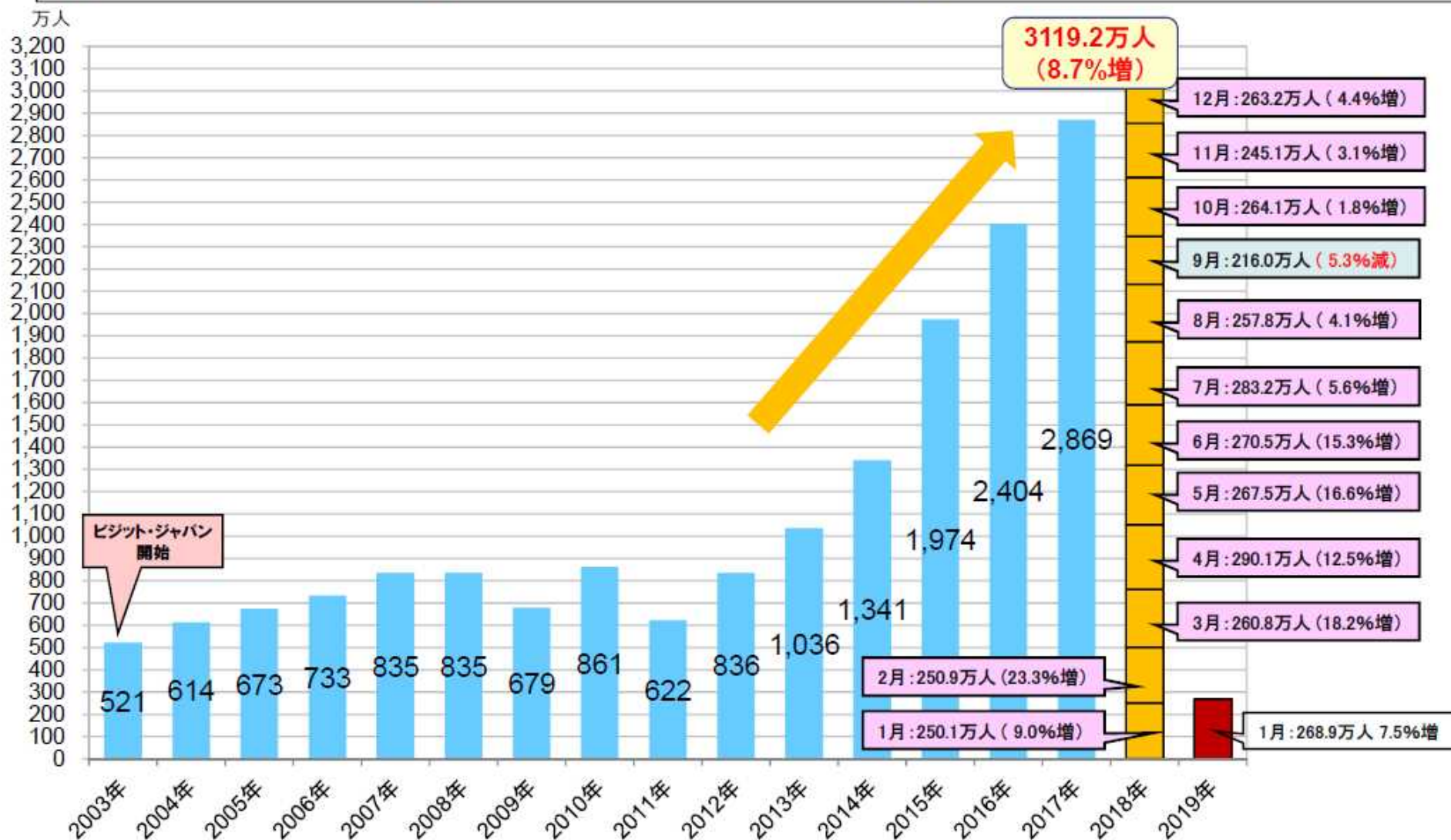
増加する航空需要(国際線)

我が国の国際航空旅客需要は右肩上がりで増加傾向。2018年度では、過去最多の旅客数。なお、2001年以降のテロ、紛争、景気後退、東日本大震災の発生毎に一時的に落ち込みがある。
 2014(H26)6,556万人→2018(H30)10,020万人(1.5倍)
 うち「地方空港」953万人→1,921万人(2.0倍)



インバウンドの活況(訪日外国人)

○訪日外国人旅行者数は種々の施策の効果から、近年急激に拡大しており、2013年には1,000万人、2016年は2,000万人を超え、2018年は3,119万人に拡大。



注) 2017年以前の値は確定値、2018年1月～11月の値は暫定値、2018年12月～2019年1月の値は推計値、%は対前年同月比

出典: 日本政府観光局(JNTO)

出典: 訪日誘客支援空港の認定等に関する懇談会(平成30年度第1回フォローアップ)

インバウンドの活況(地方空港の入国外国人)

- 地方空港の入国外国人数は2012年～15年の3年間で約2.4倍に拡大。
- 2016年は増加が一服し、入国外国人数は微増となるも、2017年以降は再び増加率が拡大。

※地方空港＝主要7空港(羽田、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇)を除く空港

地方空港の入国外国人人数(推移)



LCCの動向

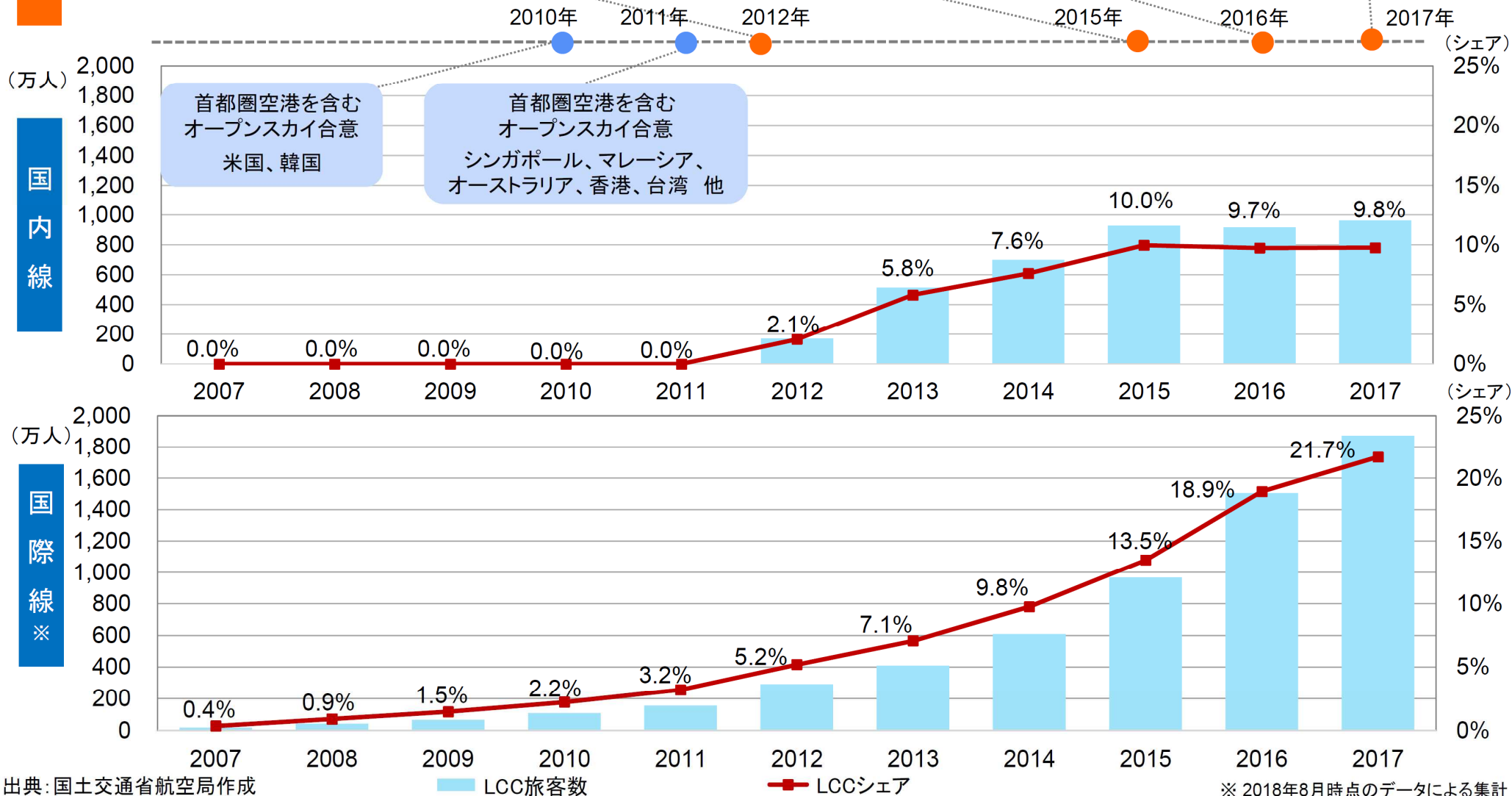
政策

4月 旅客在機中給油の実施
9月 実技試験のシミュレータ化
10月 関西空港LCC第2ターミナル
(国内線) 供用開始

4月 成田空港LCC
第3ターミナル供用開始

1月 関西空港LCC第2ターミナル
(国際線) 供用開始
3月 中部空港エプロン拡張部供用開始

7月 全国27の地方空港を
「訪日誘客支援空港」に認定



※ 2018年8月時点のデータによる集計

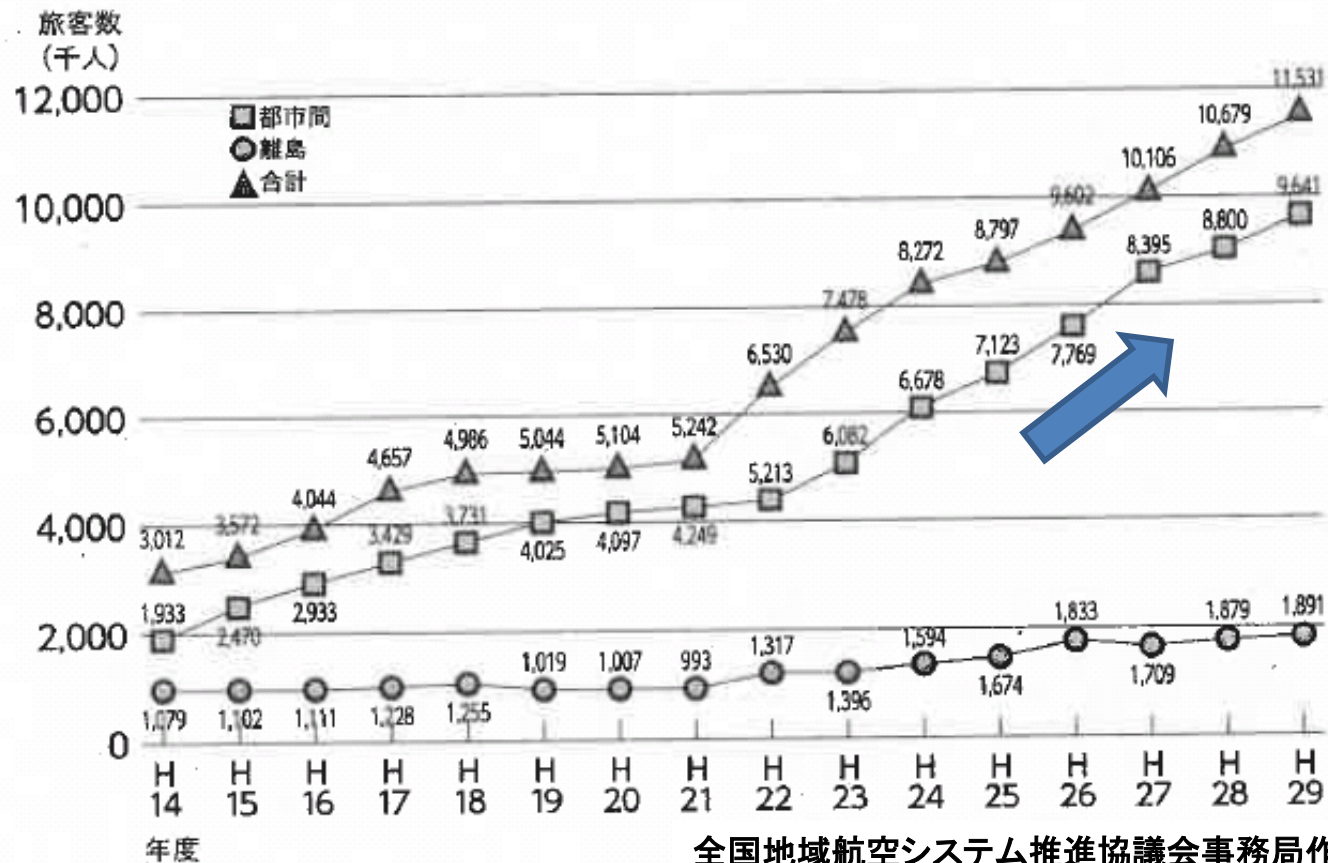
出典: 我が国におけるLCCの参入促進(国土交通省航空局)

地方空港と地方空港を結ぶ利用の増加

■近年、地方空港と地方空港を結ぶ利用者が増加。
 静岡―出雲(H29) 静岡―丘珠(H28) 名古屋―出雲(H26) 等が新たに就航

地域航空旅客輸送の推移(平成14~29年度)

(ヘリコプター、YS-11、Q400路線を含む)



(地域航空事業者:11社)
 新中央航空
 オリエンタルエアブリッジ
 日本エアコミューター
 琉球エアコミューター
 ジェイエア
 ANAウイングス
 東邦航空
 北海道エアシステム
 天草エアライン
 アイベックスエアラインズ
 フジドリームエアラインズ

全国地域航空システム推進協議会事務局作成

新たな地域航空会社設立の動き

【Jcas(ジェイキャス)】

2021年秋に富山-関西路線を計画中

- 運航コストが安いターボプロップ機(70~80人)を使用する
- 関西国際空港、中部国際空港と地方空港(特に北陸・山陰地域)を結ぶ近距離路線網を構築し、地方空港の活性化を図る
- JRに比肩する運賃を提供し、時間的に優位な交通手段を提供する
- 多頻度運航による利便性向上と採算性の確保を実現する
- 人・物・情報の新たな流れを創造し新たな雇用を創出する
- インバウンド旅客を地方に誘引し観光立国に寄与する

出典:Jcas公式ホームページ

【新潟県】

- 「新潟空港活性化検討会」にて地域航空会社設立の意見も挙がっている。

航空機の短距離離発着性能の向上

■STOL(Short Takeoff and Landing)、VTOL(Vertical Takeoff and Landing)技術進展

ATR STOL機

- ・ATR42-600Sのローンチを発表(R1.10)
- ・最短800mの滑走路で離着陸可能



出典:ATR機者会見資料

JAXA VTOL機

- ・航空新分野創造プログラムの一つ
- ・垂直離発着が可能

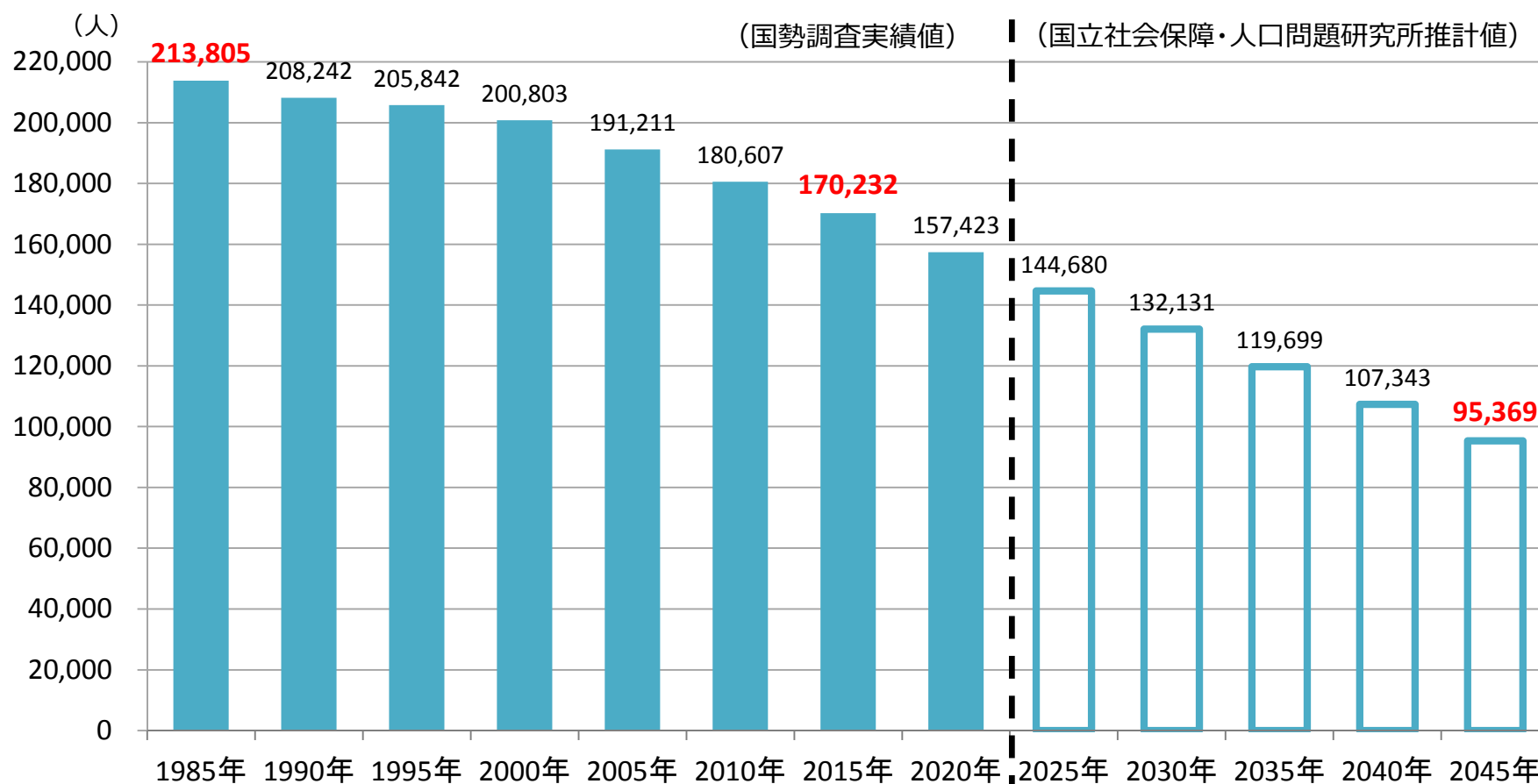


出典:JAXAウェブサイト

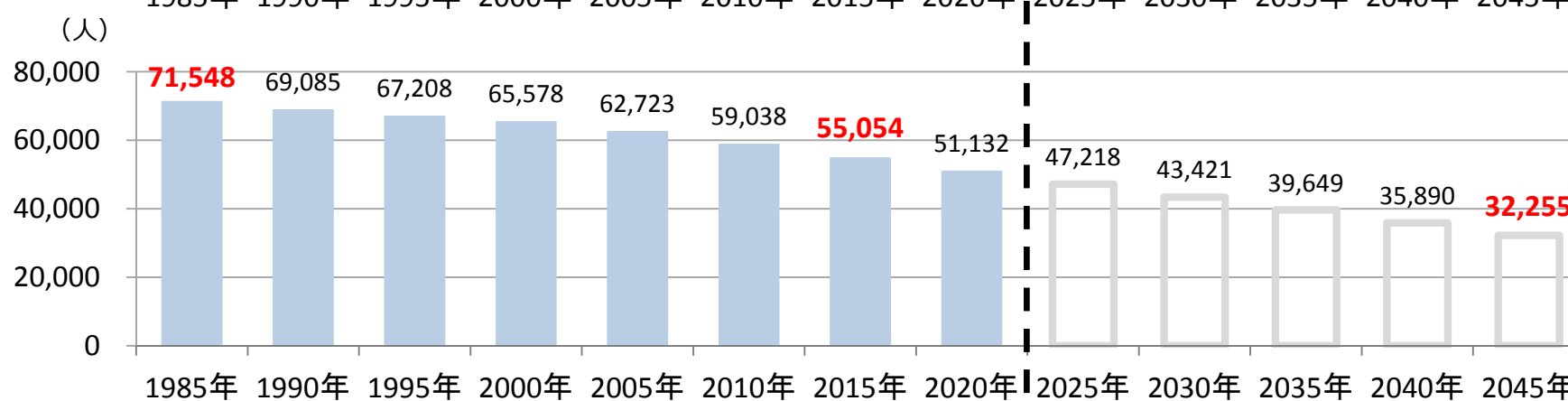
3. 但馬・京丹後地域の環境変化

但馬地域と京丹後地域の人口の推移

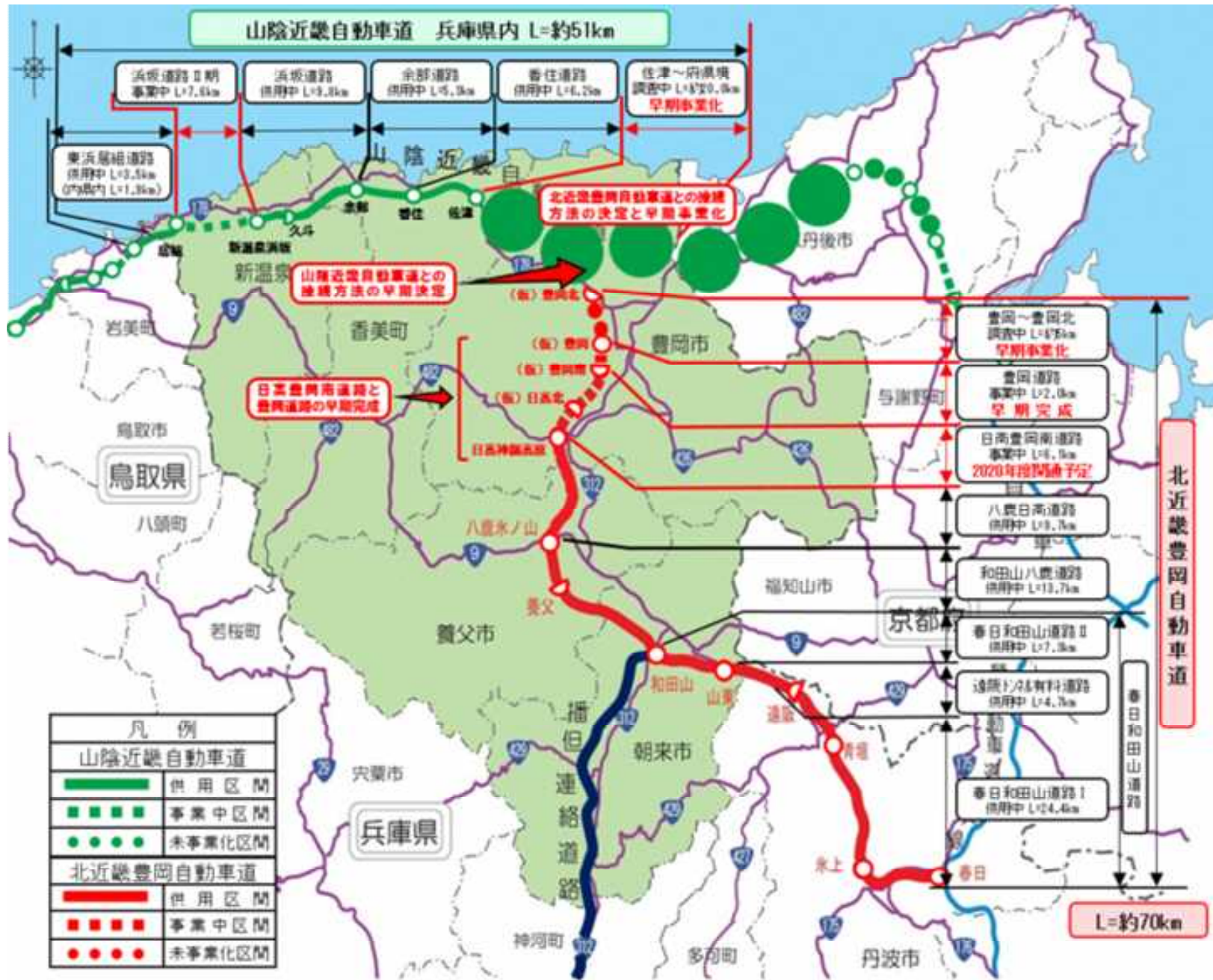
但馬地域



京丹後市



高速道路の整備推進



豊かな観光資源を活用した観光施策の展開



①松葉ガニ

・但馬での水揚げ量は全国シェア約30%を誇る



②山陰海岸ジオパーク

・2010年に世界ジオパークネットワークへ加盟認定
・2014年から2018年まで再認定



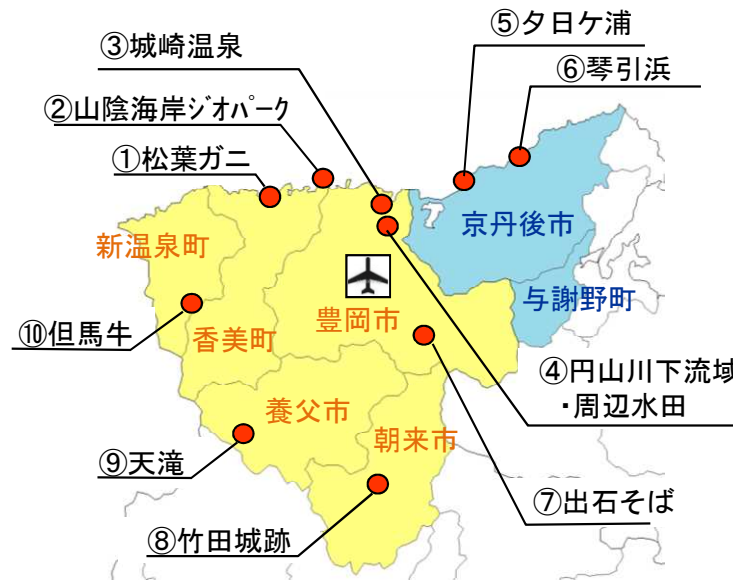
③城崎温泉

・2013年「ミシュラングリーンガイドジャポン」で2つ星
・まち全体でおもてなし



⑩但馬牛

・神戸牛や松坂牛の素牛として有名
・全国の黒毛和牛の母牛99.9%が但馬牛の子孫



④円山川下流域・周辺水田

・2012年ラムサール条約湿地に登録
・生きものの豊かさやコウノトリ野生復帰の取り組みが、世界の宝として認められた



⑨天滝

・落差98メートル、兵庫県内一の落差を誇り、「日本の滝100選」に選ばれている



⑤夕日ヶ浦

・美しい夕日で有名な景勝地で、夏は水平線に沈む太陽が見られる
・温泉街としても知られ、夏は海水浴、冬はカニを楽しむ人々で賑わう



⑧竹田城跡

・雲海に包まれた姿や竹田城から見下ろす風景は、まさに天空に浮かぶ城を思わせ、「天空の城」「日本のマチュピチュ」とも呼ばれる



⑦出石そば

・江戸時代より続く、歴史ある郷土料理
・小皿に分けた独特のスタイル、多彩な薬味とダシにこだわったつゆが特徴



⑥琴引浜

・鳴き砂で世界的にも有名な琴引浜
・日本で最初の禁煙ビーチ

交流人口(ツーリズム人口)の推移

■ 観光入込客数

○但馬地域 ※約1,000万人で横ばい

【H17】996万人 ⇒【H25】1,062万人 ⇒【H29】1,009万人

(参考)城崎温泉の観光入込客数

【H17】98.3万人 ⇒【H25】79.7万人 ⇒【H29】86.4万人

○京丹後市

【H17】193万人 ⇒【H25】176万人 ⇒【H29】218万人

■ 外国人宿泊者数

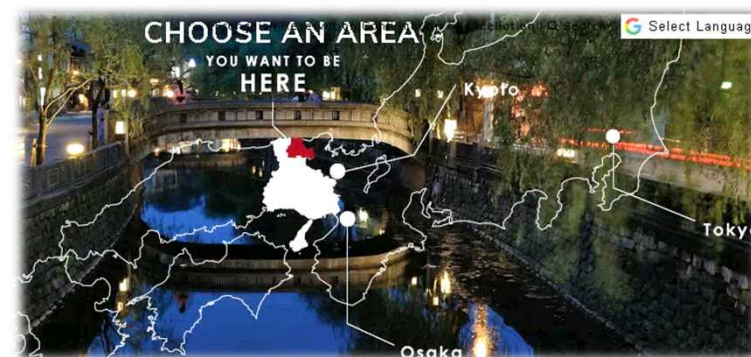
○城崎温泉 ※急増している

【H17】0.08万人 ⇒【H25】1.1万人 ⇒【H29】4.5万人

- ・H25旅行ガイドブック「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン(仏語版)」に、城崎温泉が二つ星★★として掲載
- ・但馬空港の外国人利用はほとんど見られず年間100人未満程度
→航空機利用の伸び代は大きい

○京丹後市

【H17】0.1万人 ⇒【H25】0.13万人 ⇒【H29】0.4万人



先進的な地域の動き

■ 教育施設「国際観光芸術専門職大学」の開設(2021年4月予定)

演劇通じコミュニケーション力養成



世界に誇れる存在に 専門職大、学舎の起工式

豊岡市山王町に2021年春に開学を予定している国際観光芸術専門職大学(仮称)の学舎建設予定地で30日、安全祈願祭と起工式が行われ、県や市、工事関係者ら約100人が集まった。式典に出席した学長候補の劇作家平田オリザさんは「世界に誇れる、憧れを持ってもらえるような大学に育てたい。市民にも開かれた大学にしたい」と述べた。(石川 翠)

豊岡 1学年80人の四年制大学。演劇を取り入れたコミュニケーション能力の育成や、講義を受けて実践に移すことを繰り返す教育手法を導入する。県は今年24日に設置認可申請を文部科学省に提出し、来年8月ごろの認可を見込む。

学舎は4階建てで、スタジオや劇場などの施設を整備。隣接して3階建ての学生寮を建設する。1年時は寮での共同生活を送るほか、全学生が海外での実習か語学研修を受けるなどの特徴がある。

この日の起工式で井戸敏三知事は、人口が減少する中で公立大学を建設することと触れ、「これからの時代に必要とされる人材の育成に必要とされる関係者を前にあいさつする。井戸敏三知事 豊岡市 山王町」

成として、この大学は大きな役割を果たしてくれるのではないかとあきまつした。

中貝奈治市長は「日本や世界中から強い目的意識を持った若者がやって来て、豊岡をおもしろい町にしてくれるだろう」と期待した。

2021年にオープン予定の国際観光芸術専門職大学のイメージパース。右が学舎、左が学生寮



4. 但馬空港の課題

(羽田発着枠政策コンテスト応募に向けた
協議調整で見えた課題)

羽田発着枠政策コンテスト

【コンテスト概要】

- ・配分枠数 5枠(現行3枠:山形、鳥取、岩見空港)
- ・配分期間 当初期間3年とし、その間の効果検証を行い2年間延長(現行)当初期間2年。その間の効果検証し、延長年数を決定。
- ・スケジュール
 - 募集期間 2019年12月中旬～2020年2月中旬
 - 選定結果公表 2020年3月末
 - 運航開始時期 2020年10月末～(2020年冬ダイヤ)
 - ※2020年冬ダイヤまでの間は、既に配分されている山形、鳥取、岩見が使用

①小型プロペラ機による羽田直行便は困難

(航空会社へのヒアリング結果)

■小型機を保有する航空会社

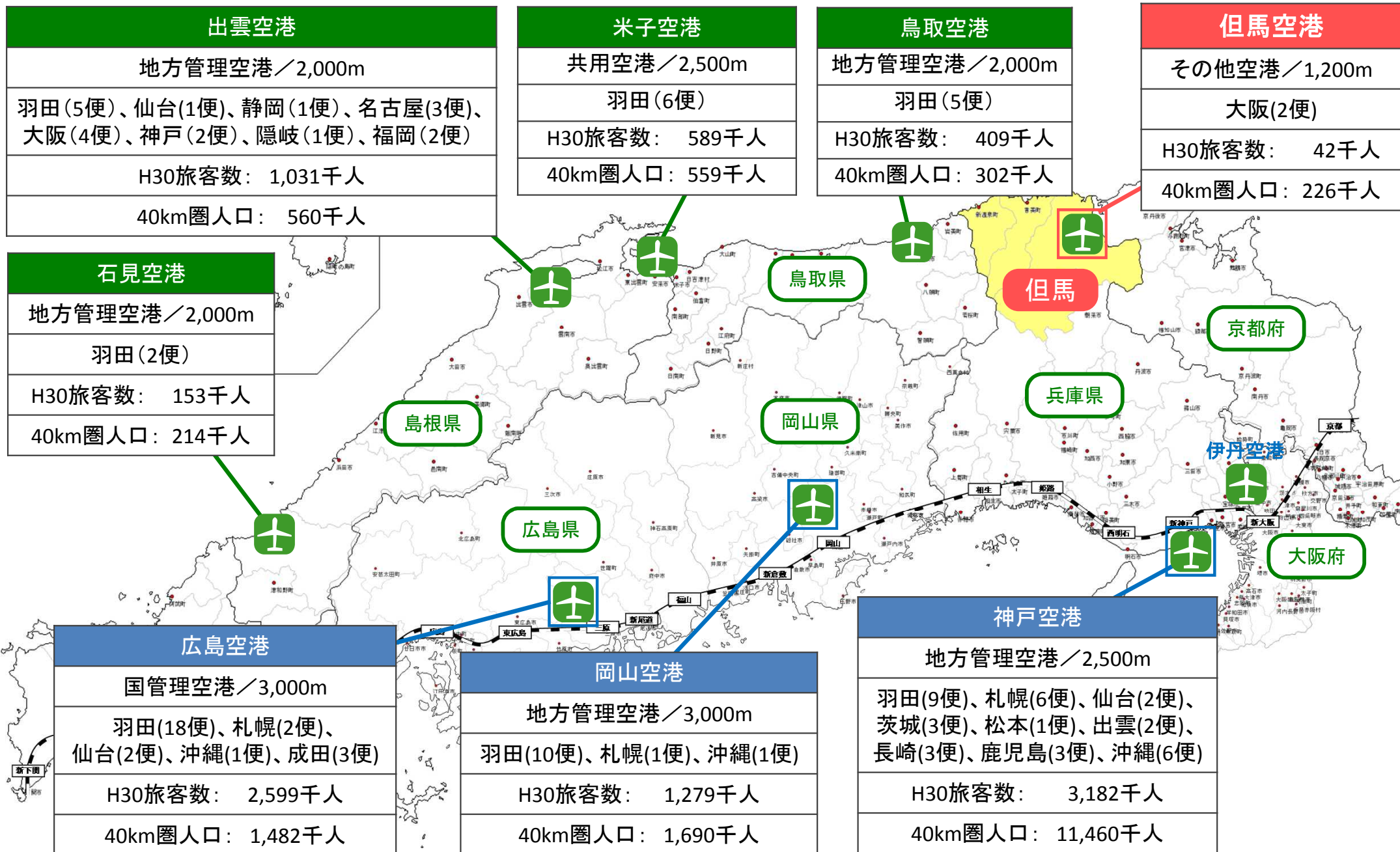
⇒現行路線を維持するための体制しかない
経営規模も小さく新たな路線展開は難しい
近年のパイロットや整備士等の人員不足により難色

■大手航空会社

⇒新たな機種を導入し維持していく体制の整備が必要
利益率から小型機を運航する判断に至らない

5. 近隣空港との比較

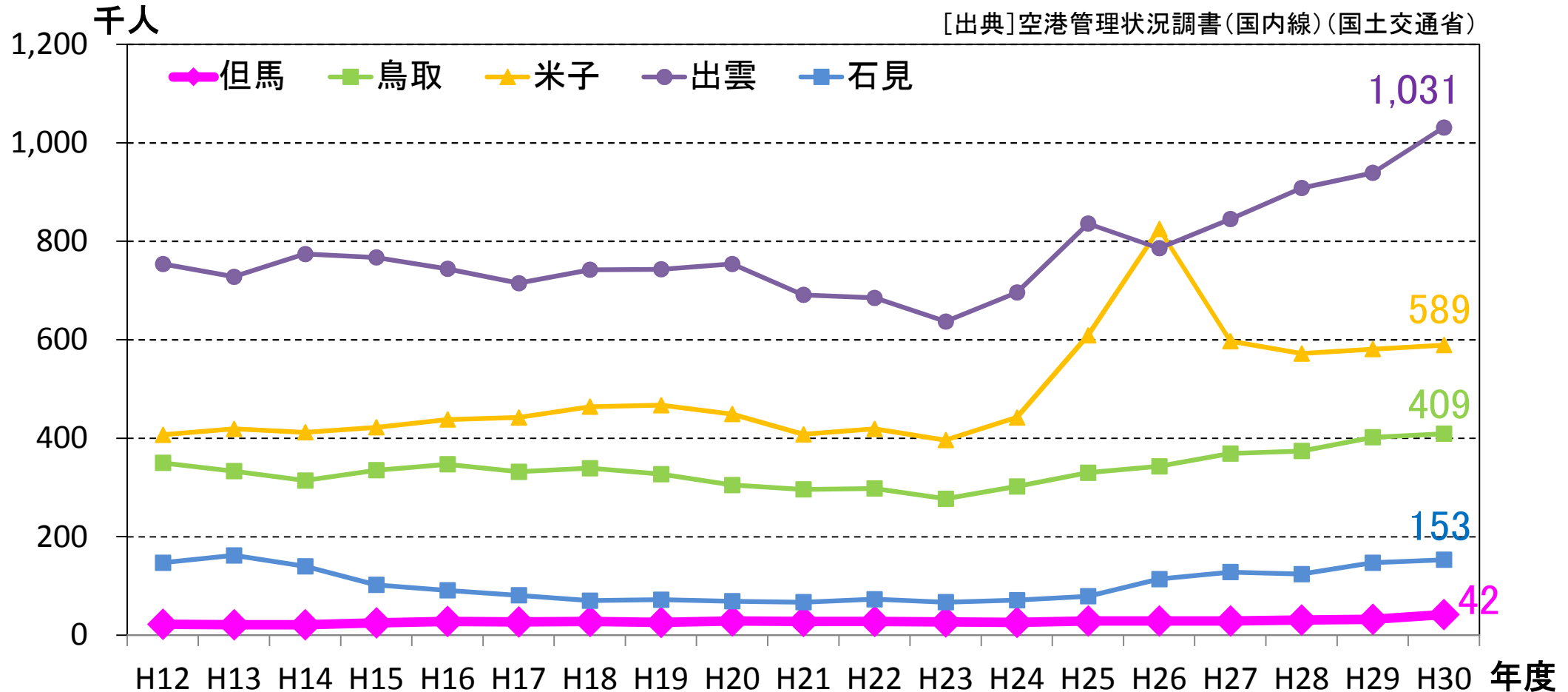
近隣空港の利用者数は但馬空港の10倍から100倍



[出典]・旅客数:H30年度空港管理状況調査(国内線)(国土交通省)・便数:航空時刻表(株創美社)(2019年11月)

近隣空港では増加基調が継続

[空港の利用状況の推移]



米子、出雲の増要因 : ① H25 出雲大社「平成の大遷宮」、② H27年7月 松江城の国宝指定

(その他) 米子 : H25年10月から羽田便が5→6便に増便

H25年12月にスカイマークが新規就航(成田、神戸、茨城)、H27年8月に撤退

出雲 : H27年3月にFDAが新規就航、現在、仙台、静岡、名古屋、神戸に就航

近隣空港の周辺観光地では観光客が増加

■ 但馬地域の観光入込客数は、“横ばい”

[観光入込客数の推移]

